



種のやりかた

種まき

種

虫とナメクジに注意!



子葉



日当たりの良いところへ移動



本葉が出たら

- ① トレーに均一に土を入れ、底から水がしたたり落ちるまで、十分湿らす。
- ② 種をまき、パーミキュライトで軽く密土し、噴霧器や霧吹きで表面を湿らす。芽が出るまで毎日1回以上湿らす。
- ③ ゴマより小さな種は、折った古はがきに並べ、つまようじで1粒ずつ落とす。覆土せずに新聞紙で覆って、土の表面が乾かないようにする。
- ④ 底に穴を開けたトロ箱に水を入れ、トレーを置く。
- ⑤ 子葉が出るまでは雨に打たれないように。子葉が出たら、日の当たる所に移し、本葉が出たら日当たりの良い所へ。



プレゼント



「ハイポネックス培養土 さし芽・種まき用」5kg・683円を10人に。さし芽や種まきに最適で、そのまま使えます。厳選された原料を使用した清潔で安心な培養土です。23ヶ所の応募要領で。プレゼント番号=30、賞品名=培養土  
商品提供=ハイポネックス ジャパン 06-6396-1119



デルフィニウム。秋にまくと春に豪華な花を咲かす  
写真提供/中道徹三郎

# 【種まきに挑戦!】

秋まき草花は、寒くなるまでに大きな苗に育てると冬越しが簡単。最近では種まき専用の土が市販され、育てやすくなりました。苗が入手にくいデルフィニウムやトルコギキョウ、ナデシコなど切り花用品種は背が高く、ガーデニングに変化を出せます。

発芽に必要なのは適切な温度、水、酸素。コツが分ければ、意外と簡単に苗作りができます。

## 【準備】

- ◆ 種子(耐寒性1・2年草、宿根草)
- ◆ 種まき専用の土 ◆ 種まき用トレー(セル苗やプラグ苗と呼ばれる小さな連結ポットを使うと、出来た苗の傷みが少ない) ◆ パーミキュライト ◆ トロ箱 ◆ ハンドスプレー ◆ 種が小さい時は古はがき、つまようじ、新聞紙

## 【適期】

● 大半の植物の発芽適温は20度前後。温度が低くなると、苗が大きくなりにくいので、9月初旬〜11月上旬までにまき、寒くなるまでに大きなポットや地面に植えて根付かせる。

## 【用土・まき方】

● 市販の種まき専用の土を使うと案外、簡単。

- 種の上にかぶせる土(覆土)は、種より細かい粒を使わない。パーミキュライト(小・中粒)を使うと、空気も供給でき、発芽しやすい。
- 1〜3粒ずつ連結ポットにまく。種が多くて苗が混むと、競り合って弱い苗になる。

## 【水管理】

- 種まき前に、必ず用土を十分湿らす。
- 種まき直後に上から強く水をかけると、水が表面を覆い尽くして窒息する。また、種が土に埋もれてしまう。
- 床土から水をしみ上げらせるか、細かい噴霧器や霧吹きで丁寧に表面を湿らす。
- 本葉が出るまでは、強い雨は絶対禁物。
- 種は植物の赤ちゃんです。ゆりかごであやすように、優しく見守り、育てましょう。